

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2190400032
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社
事業所名	憩いの里 たけはな
訪問調査日	平成19年6月12日
評価確定日	平成19年7月24日
評価機関名	NPO法人 旅人とたいようの会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 39245

## 【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 2170400032		
法人名	メディカルケアサービス東海株式会社		
事業所名	憩いの里 たけはな		
所在地	羽島市竹鼻町狐穴1831-1 (電話) 058-391-1707		
評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成19年6月12日	訪問調査日	平成19年7月24日

## 【情報提供票より】(平成19年5月6日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)18年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 6 人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造り		
	2 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	16,800
敷金	有(120000 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	5 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 78.6 歳	最低 62 歳	最高 89 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	青山内科
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この地域に10以上のグループホームを持つ法人の中のひとつである為、同じ法人内同士で意見を交換したりしてケアの向上を目指している。利用者が出来る事は自分でして頂く事を管理者職員全員が周知し、日常生活での機能維持向上を目指している。利用者の思いを大切に、無理強いせず出来るだけ毎日の散歩を心がけ、習字・折り紙・畑仕事等個別の能力を活かしての支援を行なっている。職員の気づきや利用者の言葉をそのまま毎日の介護記録に記載し、本人の思いを十分に汲み取り介護計画に反映させている。定期的な消防訓練や、毎日の自主点検を行い火災について対策を講じている。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年、法人が代わったことにより、職員の研修(法人内での研修を含め)機会が増加している。鍵をかけない工夫もされ、近隣の人々との触れあいは増加し、近くの子供も遊びにくるようになってきている。金銭管理は、家族と相談して合意が得られている。評価に対しては、管理者、職員とも、より良いホームを目指し毎日のケアに活かしていきたいと考えている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>法人事業部からの参加や、管理者が外部評価に参加して話し合いを行ない、よりよいケアに向けて評価を活かしていきたいと考えている。又自己評価に関しても、カンファレンス時話し合いをし、ケアの向上を目指している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>法人代表者が変わってしまったが、前回の評価に対して取り組みを行い改善に向けた計画を行っている。運営推進会議へ地域住民として区長の参加や、家族の参加をしてもらい活発な意見や、要望等を取り入れている。自治会への参加、回覧板へホーム便りを載せる等提案をもらい取り組んでいる。又そこでの意見を取り入れ、市町村へ相談や、たよりを持って訪問して、連携を図っている。市町村や包括センターの訪問を心待ちにし、サービス向上に生かしたいと考えている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問回数が1ヶ月に1回以上の人が多く、その都度定期的に利用者の暮らしぶりを個別につづけている。また家族の都合で訪問できなかったときには、手紙や電話で利用者の様子を伝えている。運営推進会議で家族の意見を聞き、生活歴の記載方法をセンター方式に改め、より良いケアを目指している。管理者は家族会の設置を考え、法人事業部は8月に家族アンケートを実施することを予定していると伝えられた。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームには近隣からの利用者があることから、散歩を通じて話しかけの機会があり、交流の輪が広がっている。また、散歩中に利用者が率先してゴミ拾いを行ったりしている。地域の一員としての自治会や地域活動への参加は少ないが、自治会への加入を現在検討中である。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1.その人らしい・2.心をこめた親切なサービスに努め・3.さまざまな機会を通じて・という法人の理念が事務所に掲げている。3の中に地域の人々とのふれあいを大切にすると示してある。	○	法人の理念は掲げているが、このホーム独自の理念がない。『たけはな』職員の日ごろのケアの根幹を成すものとして、この地域の中で暮らし続けることを支えるためにも独自の理念を作りパンフレットや案内や便りに掲げてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービスとしてホームのあり方をよく理解しており、地域の人との交流支援や、利用者の思いを大切にその人の気持ちに沿うようなケアを心がけ実践している。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	学校帰りの子供たちへの声掛けや、地域の祭りには参加しているが、自治会、地域活動への参加が少ない。	○	運営推進会議などを活用し地域で必要とされる活動や役割に参加し、地域の一員として地域交流に勤めてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人代表者が代わったが、前回の評価に対して取り組みを行い、金銭管理、鍵への工夫、継続的研修、緊急時の手当て、市町村とのかかわりなどへ改善に向けた計画を行っている。また評価に対しては普段の様子を見てもらいよりよいケアに向けて生かして生きたいと考えている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民として区長の参加や、家族の参加をしてもらい行事案の検討・年1回家族を交えたバーベキュー案等の、活発な意見をもらったり、家族の要望等を取り入れている。地域との連携として自治会への参加や回覧板へホーム便りを載せるなどの提案をもらい、さらなるサービス向上にむけて取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議での意見を取り入れ、市町村へ相談に行ったり、たよりを持って訪問したり、連携を図っている。市町村や包括センターの訪問を心待ちにし、サービス向上に活かしたいと考えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問回数が1ヶ月に1回以上の人が多く、その都度定期的に利用者の暮らしぶりを個別に告げている。また家族の都合で訪問できなかったときには、手紙や電話で利用者の様子を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族の意見を聞き、生活歴の記載方法をセンター方式に改め、より良いケアを目指している。	○	管理者は家族会の設置を考え、法人事業部は8月に家族アンケートを実施する事を予定していると伝えられた。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ1年間は職員の離職がない。新規採用にあたって、利用者に徐々に慣れ親しんでもらう為に『ボランティア』として入り、利用者との距離を少なくしてから勤務についている。しかし今後異動や離職等があった場合について、利用者への配慮方法などへの取り組みはなされていない。	○	現在は変動がない状態であるが、今後職員の異動や離職等あった場合について、利用者への負担の軽減が出来るような配慮や支援方法を希望する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として新人研修、段階ごとの研修を行なっている。法人外研修にも研修費用を持ち職員の研修支援をしている。また職員も積極的に参加し、自分の休日に研修を組み込んだりして、自己研鑽に積極的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループ内での交流を行い、そこで意見を活発に交換したり、互いに勉強しサービスの向上に取り組んでいる。	○	地域の同業者と今後も広く交流する機会として、岐阜県グループホーム協議会の利用も考慮しさらなるネットワーク作りに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人は家族と共に何回も訪問していただき、お茶を職員が勧めるなどして馴染んでもらい利用につなげている。法人事業部としては、今後実費での食事提供場面も出来たらと考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の生活の中で折り紙を教えてもらう・献立メニューを書いてもらう・味付けや料理を教えてもらう等、本人から学ぶ機会を多くし、できなくなってきた時は支援をしながら共に生活をする事を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの話や本人からの希望を聞き、意向に添えるように努めている。把握が困難な人には、ゆっくりと時間をかけ目を見ながら話し掛け本人を注意深く見守り、思いを汲み取ろうと努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	運営推進会議からの家族の意向を取り上げ、アセスメントをセンター方式にしたり、本人、家族の意見も取り入れミーティング時に職員と話し合い介護計画を作成している。家族訪問時に計画書に印をもらい確認をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が申し送り時介護記録に書き管理者が目を通して見ている。緊急時にはその都度計画の見直しを職員や家族との話し合いの下、変更を行なっている。介護支援専門員と管理者は常に連絡を密にする為にノートを作成し、必要時には臨時ミーティングを開いている。	○	介護計画については、出来れば1ヶ月毎の見直しを行い、よりよいケアにつなげて欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関の受診支援をしている。24時間対応できる医療関連体制がある。	○	終末期の対応に向けて実行可能な支援の検討、及び、本人の希望の実現等への多機能性を活かした支援を希望したい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	年1回、市が定期的に行う健康診断を受けている。かかりつけ医を持つ利用者は、受診した場合は家族から結果報告をホームが受け、協力医に報告し連携を保っている。1回/週の往診があり、受診結果は個人毎にファイルされ、家族の訪問時に結果を説明している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、「重度化したときの指針」及び「寝たきりになった時の対応」としてマニュアル化され、法人としての方針があり、全員で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護に関しては、マニュアルがあり、それに基づいて個人情報の取扱が行われている。ミーティング時には個人名を出さない工夫や難聴の方には体に触れて誘導するなど、利用者の気持ちを把握した上で声かけする介護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態が変わったりして、ふっと発した言葉を介護記録に記録し、本人の思いを察知することに努めている。また、動作に関する気づきも記録されている。計画作成担当者は記録によく目を通し、重要な点をピックアップしてまとめ、1人ひとりの希望にそえるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日、祭り等の行事には特別メニューが用意されている。利用者の希望は、居間に備えられた料理本も参考に週1回ごとに希望を集めて法人の管理栄養士に送っている。糖尿病等の疾病を持つ利用者に対しては、量を少なくする、減塩する等の対応を取っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は昼間、毎日可能とする。バイタルチェックで異常がなければ好みの時間に入浴が出来る。入浴拒否をされる利用者に対しては、納得して入浴してもらうよう工夫をこらしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴は、家族の希望を取り入れ、センター方式を利用して記録されている。利用者ごとに担当職員を決め、意向の把握と情報を集めて本人の力を活かし、習字、絵、折り紙、俳画や歌を楽しむ支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は日常的に行われており、散歩中に知り合いの人達と会話を楽しむ利用者もいる。希望によって1日2、3回の散歩になったり、途中で喫茶店に寄ることもしばしばある。車椅子の利用者も参加している		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は施錠しているが、日中はしていない。スタッフが少ない早朝、夜間を除いて、スタッフが本人に付き添って歩く等の支援を行い、近所の人に見守りを願うことも可能としている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを用意して、年1回、消防署の協力を得て防災訓練をしている。また、それ以外に、レクリエーションの一環としてホーム独自の防災訓練を行っている。災害時に備え、家族への連絡表及び常備品として毛布と水を用意している。火の始末等21項目に及ぶ防災点検表を作成し、毎日夜勤者が項目に従い点検チェックしている。	○	防災訓練には、消防署だけでなく、近所の人を含めた訓練を計画されることを希望する。更に、災害時には近隣を巻き込んだ支援が得られるよう声かけ等を検討されたい。法人としては、スプリンクラーの設置など法令への対応も考慮中である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は、利用者ごとの介護記録に毎日記録され支援されている。管理栄養士が月毎に栄養バランスを考慮して献立表を作成している。摂取障害の利用者が出た場合はとろみ、キザミ、ミキサー処理の料理法を取り入れて対応するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間で多くの時間を過ごす利用者にとっては、食事の匂いや、窓の開閉等により五感や季節感を意識できるように支援している。居間、廊下、玄関には利用者の最近の作品や日常の様子や行事に参加した写真が飾られ、利用者はそれらを見て楽しみとしている。車椅子利用の方にも対応できるように洗面台も若干低めに設定されている。	○	新しく、明るく、清潔感があるが、利用者が活躍した時代の家具や調度品もさりげなく置いていただき、話題を提供する支援もお願いしたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット対応、布団対応と利用者の希望にそった居室がつくられている。馴染み・好みの家具・調度品、仏壇も入れられ、写真、作品等が壁に貼られた居室と様々である。		



## 2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1.その人らしい・2.心をこめた親切なサービスに努め・3.さまざまな機会を通じて・という法人の理念が事務所に掲げている。3の中に地域の人々とのふれあいを大切にすると示してある。	○	法人の理念は掲げているが、このホーム独自の理念がない。『たけはな』職員の日ごろのケアの根幹を成すものとして、この地域の中で暮らし続けることを支えるためにも独自の理念を作りパンフレットや案内や便りに掲げてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービスとしてホームのあり方をよく理解しており、地域の人との交流支援や、利用者の思いを大切にその人の気持ちに沿うようなケアを心がけ実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	学校帰りの子供たちへの声掛けや、地域の祭りには参加しているが、自治会、地域活動への参加が少ない。	○	運営推進会議などを活用し地域で必要とされる活動や役割に参加し、地域の一員として地域交流に勤めてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人代表者が代わったが、前回の評価に対して取り組みを行い、金銭管理、鍵への工夫、継続的研修、緊急時の手当て、市町村とのかかわりなどへ改善に向けた計画を行っている。また評価に対しては普段の様子を見てもらいよりよいケアに向けて生かして生きたいと考えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民として区長の参加や、家族の参加をしてもらい行事案の検討・年1回家族を交えたバーベキュー案等の、活発な意見をもらったり、家族の要望等を取り入れている。地域との連携として自治会への参加や回覧板へホーム便りを載せるなどの提案をもらい、さらなるサービス向上にむけて取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議での意見を取り入れ、市町村へ相談に行ったり、たよりを持って訪問したり、連携を図っている。市町村や包括センターの訪問を心待ちにし、サービス向上に活かしたいと考えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問回数が1ヶ月に1回以上の人が多く、その都度定期的に利用者の暮らしぶりを個別に告げている。また家族の都合で訪問できなかったときには、手紙や電話で利用者の様子を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族の意見を聞き、生活歴の記載方法をセンター方式に改め、より良いケアを目指している。	○	管理者は家族会の設置を考え、法人事業部は8月に家族アンケートを実施する事を予定していると伝えられた。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ1年間は職員の離職がない。新規採用にあたって、利用者に徐々に慣れ親しんでもらう為に『ボランティア』として入り、利用者との距離を少なくしてから勤務についている。しかし今後異動や離職等があった場合について、利用者への配慮方法などへの取り組みはなされていない。	○	現在は変動がない状態であるが、今後職員の異動や離職等あった場合について、利用者への負担の軽減が出来るような配慮や支援方法を希望する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として新人研修、段階ごとの研修を行なっている。法人外研修にも研修費用を持ち職員の研修支援をしている。また職員も積極的に参加し、自分の休日に研修を組み込んだりして、自己研鑽に積極的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループ内での交流を行い、そこで意見を活発に交換したり、互いに勉強しサービスの向上に取り組んでいる。	○	地域の同業者と今後も広く交流する機会として、岐阜県グループホーム協議会の利用も考慮しさらなるネットワーク作りに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人は家族と共に何回も訪問していただき、お茶を職員が勧めるなどして馴染んでもらい利用につなげている。法人事業部としては、今後実費での食事提供場面も出来たらと考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の生活の中で折り紙を教えてもらう・献立メニューを書いてもらう・味付けや料理を教えてもらう等、本人から学ぶ機会を多くし、できなくなってきた時は支援をしながら共に生活をする事を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの話や本人からの希望を聞き、意向に添えるように努めている。把握が困難な人には、ゆとりと時間をかけ目を見ながら話し掛け本人を注意深く見守り、思いを汲み取ろうと努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	運営推進会議からの家族の意向を取り上げ、アセスメントをセンター方式にしたり、本人、家族の意見も取り入れミーティング時に職員と話し合い介護計画を作成している。家族訪問時に計画書に印をもらい確認をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が申し送り時介護記録に書き管理者が目を通して見ている。緊急時にはその都度計画の見直しを職員や家族との話し合いの下、変更を行なっている。介護支援専門員と管理者は常に連絡を密にする為にノートを作成し、必要時には臨時ミーティングを開いている。	○	介護計画については、出来れば1ヶ月毎の見直しを行い、よりよいケアにつなげて欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関の受診支援をしている。24時間対応できる医療関連体制がある。	○	終末期の対応に向けて実行可能な支援の検討、及び、本人の希望の実現等への多機能性を活かした支援を希望したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	年1回、市が定期的に行う健康診断を受けている。かかりつけ医を持つ利用者は、受診した場合は家族から結果報告をホームが受け、協力医に報告し連携を保っている。1回/週の往診があり、受診結果は個人毎にファイルされ、家族の訪問時に結果を説明している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、「重度化したときの指針」及び「寝たきりになった時の対応」としてマニュアル化され、法人としての方針があり、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護に関しては、マニュアルがあり、それに基づいて個人情報の取扱が行われている。ミーティング時には個人名を出さない工夫や難聴の方には体に触れて誘導するなど、利用者の気持ちを把握した上で声かけする介護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態が変わったりして、ふっと発した言葉を介護記録に記録し、本人の思いを察知することに努めている。また、動作に関する気づきも記録されている。計画作成担当者は記録によく目を通し、重要な点をピックアップしてまとめ、1人ひとりの希望にそえるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日、祭り等の行事には特別メニューが用意されている。利用者の希望は、居間に備えられた料理本も参考に週1回ごとに希望を集めて法人の管理栄養士に送っている。糖尿病等の疾病を持つ利用者に対しては、量を少なくする、減塩する等の対応を取っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は昼間、毎日可能とする。バイタルチェックで異常がなければ好みの時間に入浴が出来る。入浴拒否をされる利用者に対しては、納得して入浴してもらうよう工夫をこらしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴は、家族の希望を取り入れ、センター方式を利用して記録されている。利用者ごとに担当職員を決め、意向の把握と情報を集めて本人の力を活かし、習字、絵、折り紙、俳画や歌を楽しむ支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は日常的に行われており、散歩中に知り合いの人達と会話を楽しむ利用者もいる。希望によって1日2、3回の散歩になったり、途中で喫茶店に寄ることもしばしばある。車椅子の利用者も参加している		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は施錠しているが、日中はしていない。スタッフが少ない早朝、夜間を除いて、スタッフが本人に付き添って歩く等の支援を行い、近所の人に見守りを願うことも可能としている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを用意して、年1回、消防署の協力を得て防災訓練をしている。また、それ以外に、レクレーションの一環としてホーム独自の防災訓練を行っている。災害時に備え、家族への連絡表及び常備品として毛布と水を用意している。火の始末等21項目に及ぶ防災点検表を作成し、毎日夜勤者が項目に従い点検チェックしている。	○	防災訓練には、消防署だけでなく、近所の人を含めた訓練を計画されることを希望する。更に、災害時には近隣を巻き込んだ支援が得られるよう声かけ等を検討されたい。法人としては、スプリンクラーの設置など法令への対応も考慮中である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は、利用者ごとの介護記録に毎日記録され支援されている。管理栄養士が月毎に栄養バランスを考慮して献立表を作成している。摂取障害の利用者が出た場合はとろみ、キザミ、ミキサー処理の料理法を取り入れて対応するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間で多くの時間を過ごす利用者にとっては、食事の匂いや、窓の開閉等により五感や季節感を意識できるように支援している。居間、廊下、玄関には利用者の最近の作品や日常の様子や行事に参加した写真が飾られ、利用者はそれらを見て楽しみとしている。車椅子利用の方にも対応できるように洗面台も若干低めに設定されている。	○	新しく、明るく、清潔感があるが、利用者が活躍した時代の家具や調度品もさりげなく置いていただき、話題を提供する支援もお願いしたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット対応、布団対応と利用者の希望にそった居室がつくられている。馴染み・好みの家具・調度品、仏壇も入れられ、写真、作品等が壁に貼られた居室と様々である。		